

令和7年度 はじめての人（入門レベル）のための日本語教室 報告書（概要）

1. 事業概要

(1) 趣旨

市内の日本語教室で学ぶ学習者数は、市内に在住する外国人人口 20,456 人（令和7年4月末現在）に対し延べ 413 人（令和7年4月1日現在）にとどまる。このため、外国人市民の日本語学習の需要を掘り起こして地域の日本語教室につなぐことが必要であると考え、平成25年度より市主催で「はじめての人（入門レベル）のための日本語教室」を実施し、本教室で学習を終えた外国人市民を地域の日本語教室につなぐ形で事業を実施している。

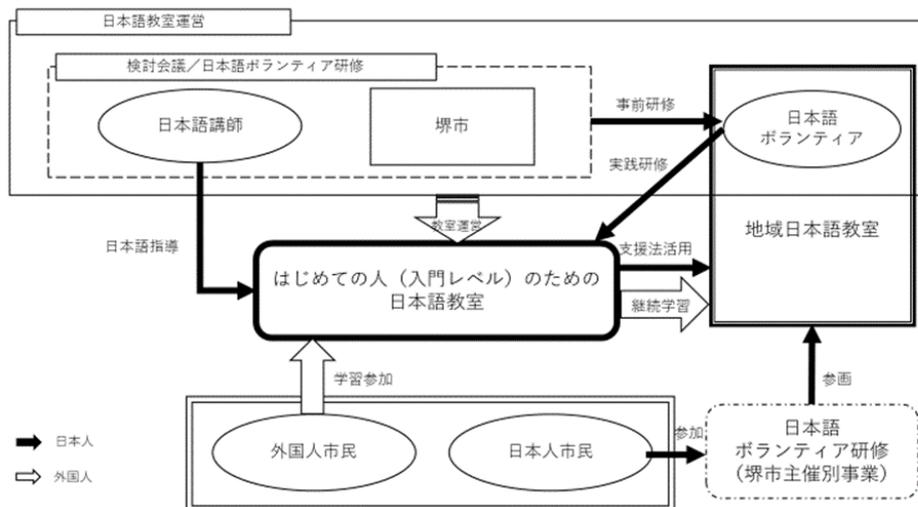
同時にこの場を市内で活動する日本語ボランティアが入門期の学習者への接し方や学習支援法及び1対複数での学習支援法を習得する研修の場とするとともに、ボランティアどうしの横のつながりやプロの日本語教師とボランティアのつながり、行政とボランティアの顔の見える関係づくりの場としても活用する。

(2) 実施スケジュール

検討会議を開催して昨年度事業の振り返り及び今年度事業の実施方法等について検討した。また、日本語ボランティア実践研修参加者（アシスタント活動者）の増加及び本教室で使用している教材『さかい de にほんご』の「つながるにほんご」やこれを活用した学習支援法の普及を目的に「日本語ボランティア実践研修」に先駆けて、「日本語ボランティアスキルアップ研修」を実施した。すべての事業終了後に総括を行った。

7月	検討会議
8月	日本語ボランティアスキルアップ研修
9月	日本語ボランティア実践研修 講義
9月～11月	日本語教室、及び日本語ボランティア実践研修 実践
12月	総括会議

(3) 事業スキーム



2. 実施実績

<日本語教室>

目的：・入門レベルの日本語能力の人が地域の人と人間関係を構築できるようになる。
・入門レベルの日本語能力の人が地域社会に踏み出せるようになる。

開講日時：令和7年9月26日（金）～11月21日（金）

毎週火曜・金曜 14:00～16:00（全15回）

授業内容：・自己表現のための日本語表現及びそれに伴う文法項目の習得
・習得した日本語表現を活用した会話練習（実践）

- ・「駅での会話」「病院での会話」など特定の場面での会話練習

開講場所：堺市立多文化交流プラザ・さかい 会議室（大）

学習者数：14人〔中国9人、ネパール3人、ブラジル1人、ペルー1人〕

<日本語ボランティア実践研修>

目的：・入門レベルの学習者への話し方や接し方、学習支援の方法を学ぶ。

- ・マスターテキストアプローチによる学習支援や場面会話、対話型活動の方法を学び、1対複数での日本語学習支援法を習得する。

開講日時：<a. 事前研修>

令和7年9月9日（火）、令和7年9月16日（火）14:00～16:30（全2回）

<b. 実践研修～授業にアシスタントとして従事～>

令和7年9月30日（火）～令和7年11月21日（金）

毎週火曜・金曜のうち、指定された4～10日

13:50～16:30（打合せ・振返りの時間を含む）

〔火曜日は6人、金曜日は4人が従事したが、原則として、金曜日の従事者は、同一週の火曜日に従事した者の中から4人を従事者として指定した〕

研修内容：・入門レベルの日本語学習者に対する話し方や接し方

- ・マスターテキストアプローチによる学習支援法
- ・場面会話及び対話型活動の進め方

開講場所：堺市立多文化交流プラザ・さかい

受講者数：13人

3. 成果と課題

(1) 成果

まず、継続学習者を全員地域日本語教室につなげられた点をあげたい。本事業では外国人市民の日本語学習の需要を掘り起こして地域日本語教室につなぐことを目的の一つとし、これまでも職員が日本語教室の案内を行ってきた。しかし、学習者全員を対象に担当職員のみで案内していたことから、個別に学習者の希望を聞くことはできていなかった。そこで今年度はアシスタントの協力を得て実施した。これにより、学習者の希望を個別に聞き取ることができたほか、実際に教室で活動しているアシスタントから情報を聞いたことは、学習者にとって安心感につながったと見え、本事業終了後の学習場所を見つけることにつながったと考えられる。来年度も継続して実施したい。

次に、アシスタントの1対複数での学習支援である。本事業ではアシスタントの1対複数での学習支援の習得も目的の一つとしているが、一昨年度までは複数の学習者を担当しても対応が一人ずつになる傾向がみられた。しかし、昨年度ぐらいから複数の学習者と練習や交流を行うアシスタントが増えたように感じている。事前研修や実践研修において講師よりそのコツややり方を伝えてもらってきたが、それを実践できる人がここ数年増えていると言える。来年度以降も継続して実施したい。

(2) 課題

課題の一つに、レベルの異なる学習者への1対複数支援がある。前述のように1対複数支援を行えるアシスタントは増えているが、レベル差がある場合の複数支援については、その難しさを訴える声が上がっている。講師は、それぞれのレベルに応じた目標を設定して授業を実施し、折に触れてその方法や考え方をアシスタントにも伝えてきたが、同じレベルでなければ複数支援はできないとの考えは根強い。このことから、来年度は事前研修等でレベルの異なる人がいる複数支援のメリットややり方をしっかり伝えることを検討したい。

次に、翻訳アプリの使用についてである。技術の発展により、翻訳アプリが誰でも手軽に使用できるようになったが、アシスタント活動において学習者と話す際にすぐに翻訳アプリを使用してしまふケースが出ている。使い方によっては交流や語学習得の助けになるが、行き過ぎるとそれらを阻害することにもなりかねない。来年度は事前研修等にて再度学習者との交流方法について確認し、翻訳アプリの使用について全体で共通認識を持てるように検討したい。